



東幼平和觀音（東京陸軍幼年学校慰靈觀音）

散歩のみどころ

JR中央線高尾駅北口から旧道を東へ進み、甲州街道に出て熊野神社へ。ここには獅子舞や杓文字、恋し恋し伝説がある。交差点を渡り、旧甲州街道を東へ歩く。綺麗な用水の流れや石川日記で有名な石川家があり、黒塀の民家が昔の面影を残す。暫く歩くと狭い四辻に出る。南北を通る細道が鎌倉古道である。北へ歩き古橋を渡り、岩舟地藏を左へ曲がり更に道をたどると御陵前に出る。堅叔庵を左に見ながら細道を東へ。日光神社にお参りし、高札場を見て、八王子空襲の犠牲者を奉る東幼平和観音がある東照寺へ。さらに石平道人が眠る長泉寺へと続き、新道を北に向かい出羽山公園へ。戻りながら首塚、慈眼寺、そして、大正天皇崩御後皇室専用駅として利用された東浅川宮廷駅跡で散歩を終える。解散は東浅川保険福祉センター。伝説が多く残る今回の散歩は、約6km程の行程である。

①熊野神社

東浅川町（小名原）

勧請 不明

祭神 伊邪那岐命

（いざなぎのみこと）

創建 毛利備中守師親

再建 天正元年（一五七三）

例祭 八月第三土、日曜日

昔、諸国行脚の老夫婦がこの地に紀州の熊野本宮大社を奉斎したとの伝承がある。又、創建年代がはっきりしないが片倉城主毛利備中守師親が創建したとも伝えられている。天正元年（一五七三）北条氏照が再建その後十回の改修を経ている。現在の本殿は寛政三年（二七九二）棟梁・須永織衛源信安の手により建造。末社には、江戸期に稲荷祠、牛頭天王祠、疱瘡神祠、山王祠があったが、現在では天満社、稲荷社の二社となっている。例祭は昭和三十五年市指定無形民俗文化財である。狭間の獅子舞が奉納され湯花の神事を執う。



狭間の獅子舞



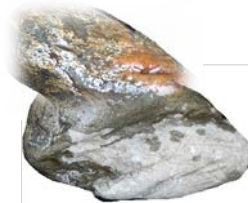
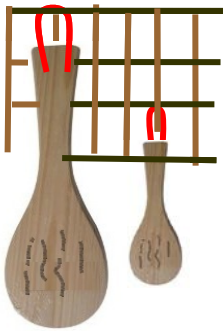
熊野神社

● 昔の恋の物語

今から四百年の昔、八王子城主北条氏照家臣、篠村左近之助に安寧姫という美しい娘がいた。氏照はこの娘を大変可愛がり、城下の月夜峰で催される宴にはいつもそばにおいていた。宴ではよく獅子舞が演じられ、囃子方にひとときわ上手に笛を吹く狭間の若者がいた。氏照は笛の名手であつたから、この若者を宴に呼んでは、笛の音を楽しむのであつた。

安寧とこの若者はしばしば顔を合わせることになり、いつしか恋が芽生えるようになった。木の下で逢瀬を重ねていたというが、二人のその後がどうなったかは定かでない。

この木は、樫と櫟が根元から一緒になって成長した相生の木だったのだ、いつしか「縁結びの木」と呼ばれるようになった。この木の根元に自分の名前と思いを寄せる人の名前を書いた小石二つを置くと、願いが叶うといわれている。



恋しい (小石)
恋しい (小石)



御神木 (相生の木)

● お杓文字様

中央線の南側の畑の中に杉木立があり、中に小さな石の祠があつた。その祠は、京王線高尾駅拡張に伴い熊野神社境内に遷された。

ばばあ森、またの名をお杓文字様ともいって、いつも杓文字が納められていた。そのお杓文字を借りてご飯をよそって食べると、たちどころに風邪が治ると言い伝えられている。ばばあ森は、大正年代まで付近の人達から信仰の対象として崇められていたという。

熊野神社前の榎は、お杓文字様の神木である。

ばばあ森のそばにぢぢい森もあつたが、明治三十四年中央線の開通と共に無くなった。その場所は東浅川小学校側の町田街道交差点付近ともいわれている。このぢぢいばば夫婦は、昔、諸国行脚の際、紀州の熊野本宮大社の御影を持って当地に奉られたとの伝承がある。

②旧甲州街道

浅川原の北側を通る旧甲州街道には黒塀の民家が立ち並び昔の面影を残している。

また、旧甲州街道の両側には用水路が通り、綺麗な水が滔々と流れ、江戸時代の八王子（横山）にタイムスリップしたようだ。この用水路は、今の甲州街道と中央線が交差している南浅川の両界橋と古淵付近から湧水を取り入れているため、未だに流れるは早い。



旧 甲州街道

●石川日記

八王子指定文化財。武田家家臣で千人同心の家柄を有する石川家で享保五年（一七二〇）から現在に至るまで書き続けられている日記の事。「諸色覚日記」「萬出入覚帳」と題し日々天気、畑、山仕事、穀物の作付け、収穫、来客記録など毎日の生活状況を記したもので二百八十年にわたる長大日記として貴重なものである。昭和四十七年（一九七二）八王子市郷土資料館の委託をうけて「古文書を探る会」が解説し、明治四十五年までを十五分冊として八王子市教育委員会が発行している。



石川家

③鎌倉街道山の根道

鎌倉街道の脇道の一つ、現在の地域のほぼ中央部を南北に縦断していた。現在五日市町の網代辺から秋川を渡って上川町に入り、戸沢峠から美山町、元八王子町、長房町、館町を通り、恋路坂を越えて町田市相原町に出た。今もそのルートをほぼ辿ることができる。

恋路坂のルートは横山道と言った。今は高尾から南は町田街道と呼ばれている。

鎌倉街道は、中世の道の名である。鎌倉幕府の所在地鎌倉へ各地から向かう道の総称で、鎌倉古道または鎌倉道ともいう。主なルートは三本あり、上道、中道、下道と呼ばれるが、このルートを中心に多くの脇道があった。





南浅川に架かる鎌倉古道橋



辻 地 蔵

④岩船地藏と

其の他の石仏

旧甲州街道の辻地藏を越え、左に入ると南浅川に出る。橋を渡り、坂を上るとそこに一本の榎の太木がある。

この榎は一里塚として植えられた木でその根方にあるのが岩船地藏といくつかの石仏である。

この地藏は船の形の石の台座の上に立っていて、昔、川を渡る時の安全を祈ったものといわれる。

その隣に立つ庚申塔には猿が馬を引いている珍しい図柄が刻まれている。(中国では昔から猿が馬の健康を守り、病気の厄払いをするという言い伝えがある)



猿が馬を引いている珍しい図柄



岩舟地藏(左)



鎌倉古道

●太夫坂

御陵内に庵の山の下を通って元八王子へ通じる道が今も残っている。この道は小田原北条の時代に作られた小田原道（太夫坂と呼ばれている）といわれる道で、太夫坂といわれる由縁は、習合神道の行者の家が何軒かあったからだといひ、また、八王子城全盛時代に遊女街があったからだともいわれている。



御陵内にある鎌倉古道とこの付近が太夫坂とも…

●竜ヶ谷戸の竜神

竜ヶ谷戸には、昔、竜が住んでいたそう。年を経て昇天する時、鱗を落としていった。その昇天する際の通り道になったのが現在の参道のあたりで、横山村の第一の上畠であったといわれている。落としていった鱗を祀った竜塚があったともいわれているが、今は残っていない。

自然林の山から湧き出る肥よくな水が、土地を肥やし作物を豊かにしてくれたことに、昔の人は感謝をこめて竜の伝説として神話化したのではないかという。



●下原鍛冶の山本家

岩船地藏近くの山本さんの家は小田原北条の時代から恩方で刀鍛冶をしていた山本周重（ちかしげ）の三男正重を祖とした刀鍛冶であった。江戸初期の享保の頃、当主が病身で打ち物が出来ないことを幕府に届け出てやめている。

其の後は農具や馬蹄の鍛冶をしていたのであろうか、今も山本さんの家は「かじや」とよばれている。

このほか、屋号で呼ばれている家に「やねや」、「よりや」、「たばこや」などがある。

●長泉寺坂

陵墓監の官舎のある処に陵墓制定以前に長泉寺があったので、このように呼ばれている。廿里方面へ行く途中の坂である。永禄十二年（一五六九）武田信玄の部下小山田信茂が北条氏照の居城である滝山城を攻める時、この辺も戦場であった。

（廿里合戦）

●お滝の橋

長泉寺坂へ行く途中にある。御陵のできる前、自然林の山から湧き出る水を木製の笕でひいて流し、水車を廻して村の人々が穀物をついていた。今は様変わりしてしまった。



長泉寺があったと云われる場所（御陵内）

●両石（月見）橋の供養塔

消防団のポンプの置いてある詰所の少し東に小さな土橋があった（今は土橋ではない）。この橋のたもとに小さな石の供養塔が半ば土に埋もれて立っている。それには「井上氏」の文字がはっきり見える。



両石（月見）橋供養

昔、相思相愛の男女がいた。二人の恋は結ばれず、女は他家に嫁ぐ事になった。盛装した女がこの橋を通りかゝった時、かくれていた男が飛び出して来て、愛する女を殺してしまった。哀れな彼女のために供養塔が建てられた。

今でも嫁入りの日、娘はこの橋を通らないようにといわれている。

又、それより以前、天正十八年（一五九〇）六月、八王子城落城の時、城から逃げて来た身分のあるお女中が、追手を逃れるため、この橋の下の笹の茂みにかくれて難を逃れたという話も残っている。

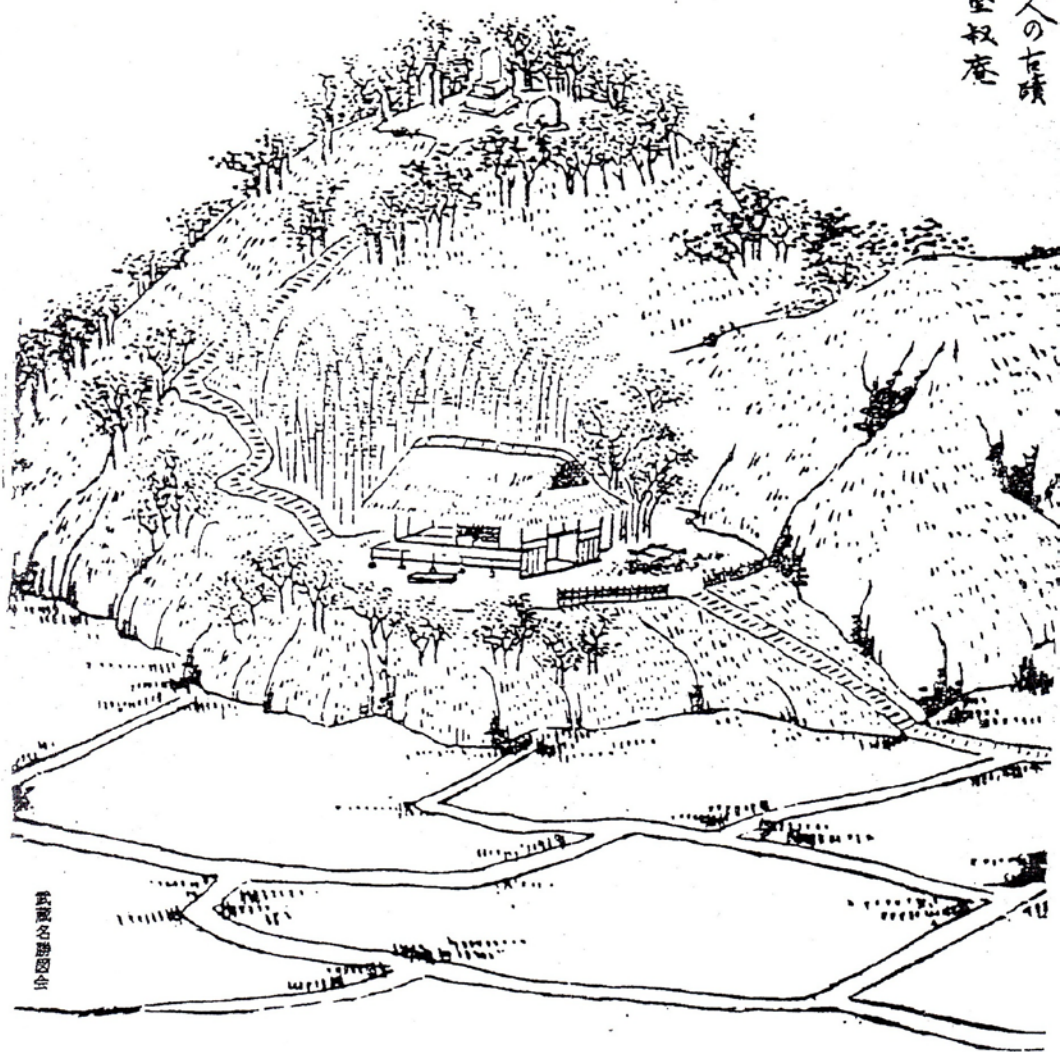
⑤庵の山（万松山）

御陵総門の右手にある小高い山である。この山は江戸初期、土地の郷土井上出羽の招きに応じた石平道人が堅叔庵（けんしゆくあん）という草庵を結んでいたところである。



庵の山（御陵入り口付近から）

石平道人の古蹟
堅叔庵



石平道人の庵 「堅叔庵」

⑥武蔵陵墓地

昭和二年（一九二七）、南多摩群横山村ほか二町村にまたがる御料地が大正天皇の御陵所として選定された。

その後、将来とも陵墓を営建すべき地として隣接する民有地が買い上げられ、現在は八王子市長房町、廿里町及び元八王子町にまたがる約四十六万㎡を有している。約四百mの参道の両側には京都の北山杉が約百五十本植栽されており、自然と調和した雰囲気醸し出している。

ここには大正天皇多摩陵、貞明皇后多摩東陵、昭和天皇武蔵野陵、香淳皇后武蔵野東陵がある。



武蔵陵墓地



大正天皇 多摩陵



貞明皇后 多摩東陵



昭和天皇 武蔵野陵



香淳皇后 武蔵野東陵

●「若いお巡りさん」

作詞家井田誠一氏縁りの家がある。彼は、明治四十一年（一九〇八）八月十三日生。平成五（一九九三）十月十二日没。早稲田大学卒業、日本音楽著作権協会評議員。昭和八年（十三年、八王子市内中学校の英語教師を勤めたこともあった。

昭和十七年（一九四二）小説集「殴る」を発表。二十三年には、戯曲集「焰の朝」を出版、ラジオ放送脚本家になる。同年、「東京シューシャンボーイ」を、三十一年には「若いお巡りさん」のヒット曲を書き、その他千五百曲余り作詞している。歌手雪村いずみのヒット曲の大半を作詞している。

「八王子の人々」宮川孝之著



●日光神社（日光権現）

石平道人が持っていた御朱印御軍令一軸、（葵の紋）飾り太刀一口（ひとふり）を御神体として彼が勧請した神社である。別当として宝蔵院という寺があつたが今は廃寺となっている。神社付近は、村の人々に宝蔵森と呼ばれている。

白山神社下にあつた安楽寺の鐘樓及梵鐘が明治初年、この寺が廃寺になる時宝蔵院に移されたが、太平洋戦争の時、鐘は国に供出し、鐘樓は中郷公会堂がたてられた時取りこわされた。（御神体は今、高尾山にある）



「若いお巡りさん」の歌碑
（高尾山薬王院の境内）



日光神社内宮



日光神社

⑦長房山東照寺

長房一二六七

宗派 曹洞宗

本尊 十一面觀世音菩薩

開山 高乗寺二世陽室慧暲大和尚

開基 高乗寺中興空海禪忠禪師

開創 永正元年（一五〇四）三月

明治十五年（一八八二）火災に遭い「堂守古記録」等を焼失。

多摩御陵（大正天皇）造営に伴い現在地に移転。昭和三年（一九二八）本堂落慶。平成十六年開創五百年をむかえた。

当寺は、三十三観音霊場第十四番札所である。

境内には、東幼平和観音（東京陸軍幼年学校慰霊観音）が祀られている。



亀の背中に乗る七福神（山門右）



長房山 東照寺

●長房町の陸軍

幼年学校

陸軍幼年学校とは、東京新宿区戸山にあった幼年学校が長房町に移転してきた。昭和十九年三月、太平洋戦争で日本の敗戦が色濃くなってきたころのことで、場所は現在の都営住宅の辺りである。それまで、船田原（ふねだつばら）と呼ばれ、民家が点在するだけだった広い台地に、校舎や寄宿舎が立ち並んだ、雄健神社もその時に創設された。

翌二十年八月二日の未明、八王子は米軍爆撃機B29による大空襲を受け、大きな被害が出た、長房の幼年学校も例外ではなかった。

東浅川町の小山クラさんは、当時の様子をこう語ってくれた。

「爆音が近づいたと思うと照明弾が落とされ、昼間のようにになりました。爆撃は八王子駅の方から始まって、だんだんこの近くにも。幼年学校にも、雨のように爆弾が落とされました」

この時、幼年学校にいた生徒や教官は四、五百名。この爆撃で死亡が確認されたのは十名。その中で六名が十四歳から十六歳までの生徒だった。

終戦で幼年学校は閉鎖され、土地は地元の人に返された。昭和五十六年に横山橋のもとに建てられた記念碑「建武台之碑」だけが、当時を思い起こさせてくれる。

東浅川町の三田地区にある十二社は、かつてはこの地に祀られていた。社殿は比較的新しく、東京陸軍幼年学校の敷地内にあった「雄建神社」でつかわれていたものである。



東幼平和観音

●六地藏

地藏様は六道能化の菩薩とされ、天道、人道、修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道という、あらゆる世界すべてに及んでいる。

六道にさまよう悪趣を救い、人々が本来もっている仏性にめざめさせ、悪業の報いを除いてくれるという。

・地藏：地獄道に苦しむ悪趣

を救い能くその苦を

除き、仏果を導く

菩薩

- ・寶珠地藏：餓鬼道能化の菩薩
- ・寶印地藏：畜生道能化の菩薩
- ・持地藏：修羅道能化の菩薩
- ・除蓋障地藏：人間能化の菩薩
- ・日光地藏：天上能化の菩薩



長房山 東照寺山門



六 地 蔵

⑧ 玉鳳山長泉寺

長房町一二五八

宗派 臨濟宗・南禅寺派

(山田・広園寺末)

本尊 聖観世音

寺宝 開基守本尊

薬師如来像 (伝行基作)

釈迦如来像 (伝運慶作)

開山 僧玉永珍和尚

開基 天文年間 (一五三二〜五五)

秩父刑部小輔重昌公

開創 応仁元年 (一四六七)

永禄十二年 (一五六九) の廿里合

戦、天正十八年 (一五九〇) の八王子城落城の際に焼失、詳細は不明。

長房丘陵の南側にあり、以前は多摩御陵の敷地内にあったが、御陵建設に伴って現在に移転。本堂内には石平道人の木坐像がある。



石平道人禅師 (長泉寺蔵)



長 泉 寺

● 石平道人の墓

石平道人の本名は鈴木九太夫正三、天正七年 (一五七九) 三河国東加茂郡則定 (現、愛知県加茂郡足助町大字則定) に於いて則定城主鈴木忠兵衛重次の長男として生れた。父に従って関東に移り、二十二歳の時、徳川秀忠に属して信州真田に初陣、その後、大阪冬、夏の陣等の合戦に参加して巧を立てたが、家督を弟重成に譲って、自分は旗本として幕府に仕えた。但し、思うところあって元和六年 (一六二〇) 四十二歳で出家した。曹洞禅を主としたが、自ら仁王禅と称し、独自の思想を持ち、仏法は日常生活に役立つ生きたものでなくてはならないといった。又、彼は文筆にも秀れ、假名草子といわれる「二人比丘尼」「因果物語」その他多くの書物を著し、近世文学に大きな影響を与えている。



石平道人墓への入り口



石平道人の墓

⑨井上出羽

江戸初期中郷の郷士で、庵の山に堅叔庵を作って、石平道人を招いたと伝えられ、一説には、石平道人の家来ではないかともいわれている。江戸時代庄屋をつとめ、現在の井上義男さん、井上六郎さん両家がその子孫だといわれている。出羽のお位牌は井上義男さん宅にあり井上両家の代々の墓は長泉寺にある。

尚、当時をしのぶ高札場が井上六郎さんの弟、篤さん宅前の道路に面した所にあり、常夜灯と立札を立てた跡が残っており、現在は町会の掲示板がたっている。

●井上出羽供養の地蔵

長泉寺近くの道端にある地蔵は、井上出羽夫妻の三十三回忌供養に息子が建立したものである。



井上出羽供養の地蔵



常夜燈

●下長房尋常高等小学校門

尋常小学校のかつての校門が、民家の庭に残されている。垣根越しに見える石の門は立派なものである。

「私は、明治三十二年一月農家の長男に生まれました。この時代は、長男がかならず家の仕事をつぐというのが当然のきまりごとのようなもので、わたしも、一生を百しよう生活で終わることになっていたのです。

私が小学校に入学したのは明治三十八年四月です。下長房小学校は、明治十五年慈眼寺の中に建てられましたが、明治二十五年中郷の東はずれに開校されました。生徒は、全校で五、六十人ぐらい、先生は校長先生のほか代用教員が一人だけしかいませんでした。私のクラスは十二人ぐらいで級長が一人でした。

私は、明治四十五年三月に小学校を卒業しました。ときに、十三歳でした。」

（老翁の話そのまま）



皇太子殿下御誕生
奉祝記念



下長房尋常高等小学校校門

⑩出羽山

長泉寺から東に出ると、住宅団地「城山手」に行く新道にでる。この道路の西側、やや小高い丘に「出羽山公園」が作られている。この公園を過ぎると城山川があり、この橋は「出羽橋」と書かれ、明治初期に書かれた「皇国地誌」によると、このあたりに近藤出羽守の屋敷跡があったのではないかといわれている。

出羽山という地名はこれから付けられたといわれている。一部では、近藤出羽の館は館町にある浄泉寺の裏山といわれ、その場所は地形的にも堀跡のような箇所もあり、浄泉寺の開基も近藤出羽守助実といわれている。この出羽山は、地形的にも堅叔庵があった谷戸に近いし、このあたりの船田山に江戸時代初期に鈴木正三の生涯の道友だった、万安が居住したこともあり、井上出羽にゆかりがあつてつけられた名ではないかとも考えられている。



出羽山公園

⑪ 中郷の首塚跡

長房町・都営西一号棟前

長房団地の西に立中郷児童館および中郷学童保育所がある。その裏の西一号棟前に高さ（目測で）一二、三m程の雑木林の丘があり、やや中腹には朱色に塗られた祠がある。

丘全体がフェンスに囲まれ立入る事が出来ない。土地の言い伝えや先人方の著書によると「首塚」とも「供養塚」とも呼ばれている。

永禄十二年（一五六九）八月二十四日武田信玄が碓氷峠を越えて、小田原の北条氏康を攻める途中信玄の部下で郡内（大月市）の小山田信茂が兵二百騎、雑兵九百名を率いて十月一日夕方、小仏峠を越えて駒木野（裏高尾町）を経て川原宿（西浅川町・高尾町）に着いた。

それを知った滝山城（丹木町・高月町・滝山町）の北条氏照は老臣の横地監物・近藤助実等の兵三百余名、騎馬雑兵二千余名を十里原（廿里

町）に向かわせ小山田隊と大激戦の末、横地・近藤隊は大敗。小山田隊（信茂）は敵兵の首級二百五十一級を雑木林の丘に埋めたとされる。又、付近には集合古墳が幾つかあり二百五十一首級と共に供養され首塚として地主が祠を建て祀っているようだ。



中郷の首塚跡

⑫御陵線

多摩陵ができると、全国からたくさんの方が参拝にやってきた。当時は、御陵前に着く鉄道はなかった。一番近くの駅でも、中央線では浅川駅（現在の高尾駅）か八王子駅、京王線では東八王子駅であった。昭和六年（一九三一）、京王電鉄は御陵線（正式には京王電軌御陵線）を開通させる。

区間は、北野―片倉―山田―武蔵横山―御陵前で、距離は約六・四kmあった。

しかし、この鉄道の開通は参拝者にとって便利なものであったが、御陵前駅も甲州街道を横切る武蔵横山駅も、八王子空襲の時に焼けてなくなった。

他の鉄道会社との争いや戦争などの影響により、昭和二十年（一九四五）に廃止された。線路はなくなつたが、跡地には線路と同じカーブに沿って住宅が建ち、宅地の庭には二

本の橋脚が残っている。

廃止された御陵線は昭和四十二年（一九六七）に、北野―山田間の線路を再び使って、高尾山へと続く路線、京王高尾線に生まれ変わったのである。



御陵線終点の駅跡付近

⑬福聚山 慈眼寺

じげんじ

長房町一四九一

宗派 曹洞宗

本尊 聖観世音菩薩

寺宝 大正天皇奉悼記念大梵鐘

開山 高乗寺七世吉州豚大和尚

開創 弘治元年（一五五五）

初沢町高乗寺第七世吉州充豚大和尚の持佛聖観世音菩薩を本尊とし隠居寺を草庵された後、元和九年（一六二三）に長房町舟田に移転、更に元禄年間に三軒在家に移転した。

境内は檀頭榎本家から遠山家に至る間に三回火災にあい、建物焼失したと記録に有るが、檀徒の協力と当山三十八世大聯興運大和尚代により、立派に再建された。

寺内の大梵鐘（寺宝）は準国宝であり、先帝の御尊霊を永く奉悼し奉る為、多摩御陵参道口の慈眼寺境内に建設されたものである。

大梵鐘の口径は三尺三寸、重量は四百五拾貫（一屯半）其の鐘銘及び

序は曹洞宗大本山総持寺貫主新井石
禅禅師の撰に依り、当代の巨匠後藤
雲正氏の神技傾倒の作である。

昭和三年十一月二十六日東京に於
いて鑄造。十二月二十五日先帝三周
年に奉安された外型及び音響の優秀
さは、専門家の認めるところである。
昭和の大戦の時、金属類特別回収物
件譲渡を免除されて、文部省及び東
京都史蹟係より、保存を指定された
ものである。



慈眼寺

● さいかち 皂莢の木

残された古木。甲州街道から南浅
川を渡ったすぐ右側に、樹齢四百年
を超えるという「皂莢」の木がある。

この木は、幹や枝に沢山の棘があ
るのが特徴だ。以前は、この川の北
側堤防に植えられていたという。一
説には、八王子城防備の為、又、度
重なる川の氾濫をくい止める為、設
楽左衛門が万治元年（二六五八）頃、
私財を投じ、南浅川の川筋を変える
工事を行ったとき、当時代官を勤め
ていた高室四郎兵衛に嘆願し、護岸
のため植えたとも伝えられている。



皂莢の木

● いちよう並木と ケヤキ並木

いちようは、昭和二年多摩御陵が
できたのを記念して、道に沿って植
えられた。甲州街道の追分から高尾
駅までの四・二km、七六四本にわた
る並木は、日本の三大並木の一つと
いわれている。昭和三十九年（一九
六四）には市の天然記念物に、昭和
五十一年（一九七六）には「市の木」
に選ばれている。

ケヤキは、大正天皇が多摩陵に移
された後植えられた。武蔵陵墓地へ
の参道には百六十本のケヤキが植え
られ、きれいな並木をつくっている。
どちらの並木も、平成十三年（二〇
〇一）に八王子八十八景に選ばれて
いる。



皂莢の棘

●南浅川橋

この場所には橋はなかったが、御陵ができることで急いで架けられた。最初は木製であったが、昭和十一年（一九三九）には鉄筋コンクリートに造り替えられている。長さは、五十三・三、幅は二十mある。



南浅川橋

⑭東浅川宮廷駅

大正十五年（一九二六）十二月二十五日大正天皇崩御の後、大正天皇陵（多摩御陵）への御大葬に際し、翌昭和二年（一九二七）一月三十一日に建設された皇族専用駅である。

駅舎は平屋建て、銅板葺き、大林組の施工により完成。戦前は、菊の紋章入りの御召列車により大正天皇陵参拝に使用された。戦後は、数回利用されただけだという。

昭和三十七年（一九六二）四月五日、国より八王子市に払い下げられ、その後は市の文化施設「陵南会館」になったが、平成二年（一九九〇）

十月九日

放火により
消失した。



菊の紋章入り御召
列車 B655 系



現在の東浅川駅跡



以前の東浅川宮廷駅

◎参考資料

- ・新編武蔵風土記稿
- ・武蔵名勝図絵
- ・武蔵陵墓地 宮内庁多摩陵墓監区
事務所パンフレット
- ・八王子事典
- ・八王子市史
- ・「とんとん昔」 菊地 正著
- ・国土地理院
- ・「高尾駅界限」高尾駅南北
自由通路促進委員会
- ・「八王子周辺の民話」逸見敏刀著
- ・「八王子周辺の民話」
八王子図書館、秋間節愛著
- ・八王子市郷土資料館資料
- ・昭文社
- ・八王子市地図
- ・八王子市観光マップ
- ・インターネット各ページ
- ・八王子市郷土資料館資料

メ モ